

平成 30 年度医学生・研修医等をサポートする会 報告書

平成 30 年度医学生・研修医等をサポートする会「女性泌尿器科医のキャリアパス」が平成 31 年 1 月 31 日（木）大阪大学吹田キャンパス内の銀杏会館（大阪大学医学部学友会館・医療情報センター）で開催されました。

日本臨床泌尿器科医会が主催で、日本医師会、大阪泌尿器科臨床医会、大阪府医療人キャリアセンター、大阪大学大学院医学系研究科泌尿器科が共催でした。医師 31 名（初期研修医 2 名）、医学生 3 名、その他 3 名で、参加人数は合計 37 名でした。

【開会あいさつ】

まず日本臨床泌尿器科医会副会長/市立豊中病院顧問の清原久和先生がご挨拶されました。日本臨床泌尿器科医会が日本医師会の支援を受けて、毎年行っている医学生・研修医等をサポートする会について、開催する経緯、意義についてお話されました。



【ワークショップ】

日本臨床泌尿器科医会理事/大阪急性期総合医療センター泌尿器科の高尾徹也先生の司会で 5 名の先生の講演がありました。発表時間が短いため、あらかじめ「大学卒業からどのような道を歩んできたか?」「いつ、泌尿器科医になることを決めたのか?」「泌尿器科医でよかったこと、逆に困ったこと」「将来のキャリアプラン」「医学生研修医へのメッセージ」を発表していただくにしました。

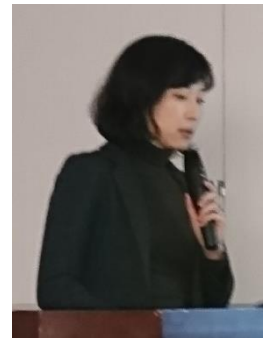


1 人目は、新専攻医からのメッセージとして、市立池田病院泌尿器科の館 彩加先生が「育児と家事と泌尿器科」と題して講演していただきました。館先生は初期研修医、専攻医の時に出産され子育てをしながら研修を行っておられます。仕事と家庭との両立についての苦勞、キャリアに対する不安や焦り、早く一人前の泌尿器科医になりたいという希望、家庭の癒しなどお話されました。今年度より日本泌尿器科学会において、後期研修医中の産前産後休暇が 3 か月半から 6 か月間の取得が可能になったことなど、取り巻く環境もすこしずつ変わってきているというお話もありました。



2人目は、大学院生からのメッセージとして、大阪大学大学院医学系研究科泌尿器科大学院生の洪陽子先生に講演していただきました。厚生労働省の統計から、泌尿器科における女性医師の割合が7%と少ない。泌尿器科は内科的な要素、外科的な要素があることが魅力である。程よいバランスで女性医師にもおすすめというお話でした。

3人目は、勤務医からのメッセージとして大阪警察病院泌尿器科医長の本郷祥子先生に「トイレットマークと泌尿器科と私」と題して講演していただきました。泌尿器科医になってどうしてもトイレットマークが気になってしまうというユーモアをまじえたお話しでした。キャリアプランについては「なるようになるし、なるようにしかならない」。外科系志望でQOLもある程度欲しい、結婚・出産後も仕事を続けたいなら“Ladies go to Urology!”。



4人目は、開業医からのメッセージとして、山口あきこクリニック院長山口晶子先生に「開業って??」と題して講演していただきました。地元に戻って眼科医を目指していたが結局泌尿器科医になったこと、働く前に考えていたキャリアプランと現実、現在の開業医としての生活と家庭の両立などお話しいただきました。「人生に正解はない」、「お互い様の気持ちが大切」、「なんとかなります」。

最後に、大阪大学大学院医学系研究科泌尿器科講師の木内寛先生に医局長の経験者として、「医局長からのメッセージ」と題して講演していただきました。大阪大学では、泌尿器科女性医師は5%であること、人事異動は、個人の資質・希望と施設の規模と希望を考慮していること、妊娠出産に伴う産休・育休・時短制度に対して医局でできるサポート体制などについてお話しされました。いろんな問題点はあるが、環境を整えることを個別のケースで対応していくというお話でした。



全体としてもっとゆっくりお聞きしたい興味深いお話ばかりでした。医学生、初期研修医の皆さんには、将来的な自分のキャリアが少しは想像できたのではないかと思います。男性医師にも、考えさせられる点が多かったのではないかと思います。

【特別講演】

座長を大阪大学大学院医学系研究科泌尿器科教授野々村祝夫先生にお願いして、「キャリアパスの可能性は無限大」というタイトルで、日本女医会会長/昭和大学医学部泌尿器科の前田佳子先生に特別講演をしていただきました。

女性医師の歴史、日本女医会について、キャリアパスについて、ご本人の履歴など多岐にわたるお話でした。

日本で初めて西洋医学を習得したのは楠本イネ（シーボルトの娘）、日本で初めて医師国家試験に合格したのは荻野吟



子、日本で初めて女性医師養成学校（東京女子医科大学の元となった東京女医学校・東京女子医学専門学校）を設立したのは吉岡彌生（27人目の女医）など女性医師の歴史をまず教えていただきました。近年、医学生の約3割、医師の約2割を女性が占めるようになり、このままいけば将来的には、医師の3割が女性ということになります。

日本女医会は1902年、前田園子（公許女医第12号（12人目の女医））によって設立され、設立の理念は「女性医師の社会的地位向上と相互研鑽」でした。現在もその理念を引き継ぎ、「福祉の増進ならびに地域医療等の社会活動」と「国際交流と親善」を加えた3本柱で活動を継続しています。1916年に北里柴三郎博士らによって設立され日本医師会よりも歴史がある会ということになります。国際女医会も1919年に発足し、今年100周年を迎えるそうです。

キャリアについて、キャリアパスとキャリアデザインは異なるものであるということをお話され、キャリアデザインについては男性医師にも女性医師にも通じるお話だったと思います。女性医師が医師として就業している率は、医学部卒業後、年が経つにつれて、減少傾向をたどり、卒業後11年（概ね36歳）で76.0%で最低となった後、再び就業率が回復していきます。女性の労働力率は結婚・出産期に当たる年代に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇するという、いわゆるM字カーブを描くことが知られており、他の職種と同じような状況です。出産・育児による離職の増加が問題となっています。一度離職してしまうと戻るのが難しく感じるので「辞めないことです。」というのが最後のメッセージでした。

【閉会あいさつ】

高尾徹也先生が、最後に本会に対する参加者への謝意を述べられ閉会しました。



【備考】

前田先生が、NHK ラジオの密着取材を受けておられたため、本会も取材受けました。会終了後に、参加者、演者にもインタビューが行われ、その内容の一部が下記で放送されました。

ジャーナル Note「追跡 女医の働く現場で」

放送時間 2019年2月11日 19時20分 - 19時55分

放送局 NHK 第1(東京)

社会の根底に流れる問題を掘り下げる「ジャーナルNote」。大学医学部の入学試験で女性が不当に扱われていた問題で女性医師を取り巻く厳しい現実が浮かび上がった。人の命を預かる医療現場で、女性医師は日々どんな悩みを抱えながら患者と向き合っているのか。支援の道はあるのか。その実態に迫るとともに、その課題を探る。

【アンケート結果】

- ・回収率 51.4 % (19/37 例)
- ・回答者年齢 中央値 33 歳 (24-57 歳)
- ・回答者性別 男：女=11：8
- ・参加された感想：1.28 (1 が 12 名、2 が 6 名、無回答 1 名)
(1 ととてもよかった、2 よかった、3 普通、4 あまり良くなかった、5 良くなかった)
- ・女性医師支援、ワークライフバランス、男女共同参画に対する意識変化は？
意識が上がった 15 名、変わらない 2 名、その他 2 名

【感想、自由記載】

- ・来年から、泌尿器科にうかがいますので色々と参考になりました。
- ・泌尿器科で働いている女医さんの様々な立場のお話を伺うことができ将来のイメージがふくらんだ。
- ・細々でも続けることが大切だと思いました。
- ・若手 DR の発表、とてもよかったです。皆さん、気負いなくて。未来は明るい。
- ・前田先生の御講義も大変俯瞰的な内容でよくわかりました。
- ・家事や育児、男女での役割分担そのものを見直す必要があると感じています (日本社会全体の常識から覆す)
- ・小学校以上になると、これも大変です (学童問題)。
- ・女性医師の直接の声を聞け、医局を運営している側として非常に貴重な (素直な) 意見を聞けました。
- ・もう少しディスカッションが聞きたかった。
- ・以前より、女医の働きやすい環境づくりに意識をおいている。
- ・多様な女性キャリアについて学ぶことができた。
- ・それぞれの講演者の方の泌尿器科を選んだ理由が楽しく、引き込まれることが多かったです。
- ・女性であるからこそ、踏み込みにくい泌尿器ならではの苦労話や、包み隠さない女性医師の主張にとっても感化されました。自分がどんなキャリアを積んで行くのか、自分の働きたい気持ちに相談してある程度自由に決めて良いのだと感じることができました。
- ・様々な立場の女医の方にお話を聞くことができ、自分の将来を考えることができました

た。

- ・今後の医療の在り方を考えることができ、将来どうしたいのかを少し考えることができました。

- ・これから自分が医師になってからどのように働きたいのか、ということを考えていけるように学生のうちからできることを始めようと思いました。

- ・様々な働き方をされている女医の本音的な話を聞けて、とても貴重な体験ができたと思う。

- ・もっと自分で調べたいと感じた。(女性医師支援、ワークライフバランス、男女共同参画に関して)

- ・女性が医師として働いていくことは難しい世の中だと私は考えています。結婚して、出産して、さらに仕事して。両立することは難しいのかなというのが今までの感想でした。一方で、先生方が出産して子育てしながら仕事をされていることは、本当にすごいことだと思います。私もまだ学生の身ですが、キャリアプランをしっかり立てて、有意義な一生を送りたいと改めて思いました。本日はありがとうございました。